

氏 名 奥山 幸子

学位の種類 修士(看護学)

学位記番号 修士第210号

学位授与の要件 学位規則第3条第1項

学位授与年月日 平成28年 9月21日

学位論文題目 看護学生の採血技術の習得を促す教育方法 —静脈採血モデルの可視化を試みて—

審査委員 主査 教授 立岡 弓子

副査 准教授 本田 可奈子

副査 講師 森本 明子

論文内容要旨

※整理番号	215	(ふりがな) 氏名	おくやま さちこ 奥山 幸子
修士論文題目	看護学生の採血技術の習得を促す教育方法 — 静脈採血モデルの可視化を試みて —		
<p>I. 研究の目的 看護学生の静脈血採血演習において、従来の血管が見えないシミュレータ（モデル）に対する、血管を可視化した透明モデルの教育上の優位性を検討する。</p> <p>II. 研究方法 研究対象者：静脈血採血の演習を体験していない、研究の趣旨に同意が得られた看護学生 28 名 調査期間：2015 年 7 月 28 日～2016 年 5 月 データ収集方法：1)装着型静脈注射トレーナー「I.V.Pad」(坂本モデル) を使用して、表皮部分となっている不透明な肌色の膜を除去し透明なシリコンゴムシートに交換しシリコンゴムシートと I.V.Pad の間に透明又は黒色の極薄いビニールを敷き固定した 2 つの透明モデル・黒色モデルを使用した。2)対象者をくじによりランダムに透明モデル群と有色モデル群の 2 群に分け、I.V.Pad を用いて練習前の評価採血を 1 回行い、その後それぞれ改造した透明・黒色モデルを用いて、10 分間採血の練習を行った後、I.V.Pad を用いて評価採血を 1 回行った。3) 練習前後の評価採血は、駆血帯装着後から針を刺す迄・針を刺してから規定量 2ml の血液を採取して針を抜く迄とした。4) 静脈血採血シミュレータを使用して採血を行った手技について感じたことについて、自記式質問紙によるアンケート調査をした。5) データ解析は、統計パッケージソフト SPSS を用い、二群の比較は、Mann-Whitney 検定を用い、練習前後の比較は、Wilcoxon の符号付順位検定を用いた。 本実験を実施するにあたり、被験者へ研究目的と方法、研究協力は自由意志による任意であり途中辞退が可能であること、得られたデータの管理及び匿名性について文書及び口頭にて説明し同意を得た。また本学の倫理委員会の承認を得て実施した。</p> <p>III. 結果 対象者は、28 名で 4 年制大学看護学科の 1 年生、透明モデル群：女性 13 名、男性 1 名、黒色モデル群：女性 14 名、平均年齢は、透明モデル群 19.7±4.7 歳、黒色モデル群 19.3±3.7 歳であった。練習前の 2 群間の時間の比較では、有意な差は見られなかった。練習前後の比較について透明モデル群で有意差が認められた。黒色モデル群についても有意差が認められた。また 2 群間の時間短縮効果の比較では、有意な差は認められなかった。自記式質問調査で、透明モデル群は全ての項目で有意差が認められたが、有色モデル群は、「注射針の刺入の長さは適切」「針の刺入が容易にできた」「注射針の刺入角度が適切」の項目で有意差が認められなかった。</p> <p>IV. 考察 透明モデル・黒色モデルのどちらも練習前後の刺入時間、採血時間、全所要時間の短縮が見られたが、両モデル間での差は認められなかった。10 分間の練習で学生は採血に慣れ、正しい方法を習得し、緊張で手を震わすことも少なくなり、時間短縮につながったと考える。透明モデル群は、目視および指で触れて穿刺すべき血管を確認し、血管の太さ、深さ、弾力性、位置、拍動などの確認をすることができ、より短時間に確実に習得できると考える。黒色モデル群は、学生が練習時に血管が見えないシミュレータで穿刺部位を確認するため、評価採血でのシミュレータの条件に近いこともあり時間短縮につながったと考える。 主観的調査で透明モデルを使用した学生は、目視して血管を確認することができたため練習の効果があつたと考える。黒色モデル群では、皮膚が不透明であるため血管を視覚で確認することができず、血管に入った針先がどのような状態か、角度は安定しているのか、挿入した針の長さが適切かどうかを確認できず、不安なままの状態での採血となり「出来た」と実感することが少なかったと考える。</p> <p>V 総括 看護学生 1 年生を対象に、静脈血採血モデルの皮膚を透明にした血管が見える「透明モデル」と、血管が見えない「黒色モデル」の有用性の違いについて「刺入時間」「採血時間」の測定による量的検討、およびアンケートによる質的検討を行った。モデルを用いた静脈血採血の 10 分間の練習で、透明モデル・黒色モデルのどちらも練習前後の刺入時間、採血時間、全所要時間の短縮があり効果が見られたが、両モデル間での差は認められなかった。透明モデルを使用した学生は、血管が透見出来るため注射針が血管に入ることを確認することができ練習がしやすいと感じていた。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)

2. ※印の欄には記入しないこと。